

DBIntegrator インストールと構成：補助ガイド

本書の内容

本書では、DBIntegrator の Web ユーティリティを使用しないで、インストール、及びマスタ odbcnmn および \$UNIFY/odbcnmn.ini ファイルの管理を、シェルから行う方法について、説明します。

本書の内容は、マニュアル「Unify DBIntegrator for UNIX: Installation and Configuration Guide」(<http://www.unify.com/products/dbi/documentation/dbiOLmans.pdf>)の内容を補助するものです。本書とともに、このマニュアルを参照して下さい。

(1) サーバのインストール (ライセンスキー反映)

サーバのデータベースのリリースをインストール時に、同時に DBIntegrator のサーバもインストールされますので、別にインストール作業は必要ありません。

その際、リリース本体のライセンスキーとは別に ODBC 関連のモジュールへのライセンスキーが必要になります。

インストールについての詳細は、添付のインストールドキュメントをご参考にして下さい。

(2) DBIntegrator サーバの設定 ----- odbcnmn.ini の編集

DBIntegrator のサーバの設定は、初期設定ファイル odbcnmn.ini を編集して行います。
\$UNIFY 下に sample.odbcnmn.ini というファイルがありますので、\$UNIFY/odbcnmn.ini という名称でコピーし、内容を編集します。

使用するサーバのデータベースが DataServer の場合と、DataServer ELS の場合で、DSN のエントリ内容が異なりますので、ご注意ください。

以下は、データベースが DataServer の例と、DataServer ELS の例を 1 つずつ示した odbcnmn.ini です。

使用するデータベースにあわせて、いずれかを編集して下さい。

sample.odbcnmn.ini から変更した箇所を、(*) で示します。

[ODBC Data Sources]

DataServer_DSN=Unify DataServer

DataServer_ELS_DSN=Unify DataServer ELS

(*) 「DataServer のサーバ DSN 名=Unify DataServer」と指定する

ELS64dsn=Unify DataServer ELS

(*) 「DataServer ELS のサーバ DSN 名=Unify DataServer ELS」と指定する

**** データベースが DataServer の場合の DNS エントリ例 ****

サーバのデータベースが DataServer の場合は、サンプルの [DataServer_DSN] エントリと同じフォーマットで設定します。

Driver=/unify/install_dir/bin/libdsodbc.so

(*) \$UNIFY/./bin/libdsodbc.so を指定

注意：HP マシンの場合、ドライバ名が libdsodbc.sl となる

Description=A test DB

Database=/home/database/db1/file.db

(*) \$DBPATH を指定 (file.db まで記述する)

**** データベースが DataServer ELS の場合の DNS エントリ例 ****

サーバのデータベースが DataServer ELS の場合は、サンプルの [DataServer_ELS_DSN] エントリと同じフォーマットで設定します。

[ELS64dsn]

(*) サーバ DSN 名 「ELS64dsn」を指定

Driver=/unify/install_dir/bin/libelsodbc.so

(*) \$UNIFY/./bin/libelsodbc.so を指定

注意：HP マシンの場合、ドライバ名が libelsodbc.sl となる

Description=A test DB

DBQ=/home/database/db1

(*) \$DBPATH を指定 (ディレクトリのみ。file.db は不要)

DBNAME=file.db

SHMID=

LANG=

LANGDIR=

VOLPATH=

[DBIntegrator]

;odbcnm must reside in <InstallDirectory>/bin

; to enable Control Center to start odbcnm.

InstallDirectory=/unify/install_dir

(*) \$UNIFY/./ を指定

MgrPort=1583

LogEvent=1

LogMask=3

Organization=Unify Corporation

BindAllAddresses=1

MgrInitProto=

MgrSecondProto=

ViewMask=251

[DBIntegrator Trace]

ManagerTrace=0

MgrTrace=0

LnaTrace=0

ServerTrace=0

LnaSrvTrace=0

OdbcTrace=0

ServicesTrace=0

TraceAppend=0

```
TraceOutput=stdout
[DBIntegrator ELS Opts]
TempFileDirectory=/tmp
ViewFileDirectory=/tmp
*****
```

(3) odbcadm の起動

- 1) root でログインします。
- 2) UNIFY、LANG など、DB 稼動時に必要な環境変数を設定します。
LANG を設定しないと、ODBC 使用時、文字化けします。
- 3) LD_LIBRARY_PATH 環境変数に、DBIntegrator の Driver の存在するディレクトリを追加します。(HP-UX では SHLIB_PATH 環境変数、AIX では LIBPATH 環境変数となります)
export LD_LIBRARY_PATH=\$UNIFY/../bin:\$ LD_LIBRARY_PATH
- 4) コマンドラインより、odbcadm を起動します。
odbcadm & (起動)

odbcadm が起動します。

ps -ef|grep odbc を実行し、正常に起動されたか確認します。

(4) DBIntegrator クライアントのインストール

1) セットアップディスクの作成について

Unify DataServer および DataServer ELS のリリースには、Client 用ソフトウェアが用意されています。

ディレクトリ「odbc_clients」下のファイルをコピーして、セットアップディスクを作成します。

```
client32 : Win32 対応版(Windows95/98/NT)
clientJava : JDBC 対応版
```

リリースをテープ媒体でご購入の場合：

テープからリリースをインストール後、必要なファイルを、Windows マシン上のフロッピーディスク(FD)へコピーします。

リリースを CD-ROM 媒体でご購入の場合：

リリースの CD-ROM を Windows マシンの CD-ROM ドライブへ挿入し、フロッピーディスク(FD)へ必要なファイルをコピーします。

例えば、Windows NT へ Unify DBIntegrator Client をインストールする場合は、ディレクトリ odbc_clients/client32 にある次のファイルをコピーします。FD の容量によっては、2 枚の FD を準備し、disk1 と disk2 に分けて作成する必要があります。

```
disk1/_inst32i.ex_
disk1/_isd1.exe
disk1/_setup.dll
```

disk1/_setup.lib
disk1/custom.ini
disk1/disk1.id
disk1/setup.exe (インストール実行ファイル)
disk1/setup.ini
disk1/setup.ins
disk1/setup.pkg
disk1/udbclt.1
disk1/uninst.exe
disk2/disk2.id
disk2/udbclt.2

- 2) クライアント PC 上で、disk1 下の setup.exe を実行します。
- 3) 別法として、セットアップディスクを作成せずに、リリースの CD-ROM を Windows マシンの CD-ROM ドライブへ挿入し、直接 setup.exe を起動することにより、Client 用ソフトウェアをインストールすることも可能です。

詳細については、マニュアル「Unify DBIntegrator for UNIX: Installation and Configuration Guide」(PDF ファイル名: DBI_I_Ux.pdf) の「2 章 Unify DBIntegrator Client のインストール」を参照して下さい。

(5) DBIntegrator クライアントの設定

- 1) クライアント PC 上で「コントロールパネル」 - 「ODBC データソース アドミニストレータ」を実行します。
- 2) システム DSN に、「Unify DBIntegratr Client」の新しいデータソースを設定します。
 1. 「システム DSN」のタグをクリックし、さらに「追加」ボタンをクリックします。
 2. セットアップするデータソースのドライバとして「Unify DBIntegratr Client」を選択し、「完了」ボタンをクリックします。
 3. システム DSN を追加するために必要な各項目の入力を行います。
 - クライアント - データソース名
任意の名称を設定
 - クライアント - 説明
コメント文 (省略可)
 - サーバ - データソース名
odbcadm.ini で定義した名称。
(2) の例では、testDSN。
 - サーバ - アドレス
サーバマシン名、または IP アドレス
 - サーバ - ポート番号
odbcadm.ini で定義した名称。
(2) の例では、1583 (デフォルト)
 4. 「OK」ボタンをクリックすると、システム DSN 追加が完了します。
- 3) ファイル DSN 追加 (自動追加)
DBIntegrator では、システム DSN の追加を行うと、同じ名称のファイル DSN が

自動追加されますので、作業は不要です。

(6) PC クライアントソフト (ACCESS、EXCEL など) からアクセス

ODBC 接続で使用するデータソース名に、(5) で追加したシステム DSN を指定して下さい。

以上